

1 学校教育目標

- 自ら考え進んで行動する子 ○ 心も体も鍛える子 ○ 仲良く助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の学習課程を計画的に実施し、児童に確かな学力を培う学校 ○ 児童が生き生きと学び、自らの成長を実感できる学校 ○ 保護者や地域と力を合わせ、児童の安全と健全育成に努める学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に集中して取り組み、学ぶ楽しさを味わえる児童 ○ 挨拶、靴揃え、廊下歩き等の品格のある行いを身に付けた児童 ○ 友達と仲良く、協力して活動することで、自分のよいところを伸ばす児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のよさや課題を的確に捉えて、褒めて伸ばす教師 ○ 協働意識をもち、学校経営に貢献する教師 ○ 保護者・地域と協力し合って、児童の健全育成に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 令和4年度の区学力調査では、通過率（2科平均）が区平均を1.9ポイント上回った。
- コロナ感染対策により、教育活動や学習形態を制限・変更しながらも、授業時数を確保し、教育課程を実施した。
- 特別支援の2教室（難聴・言語障がいと情緒障がい）設置校として、きめの細かい個別支援を行っている。

【前年度の成果】

- 大型ディスプレイやタブレット端末を活用した授業やリモート活動を進めて、ICT教育を展開した。
- 心の三名人や学習の約束に取り組んで、児童に品格ある行動を定着させた。
- 調査の結果を基に、学年の重点種目を決めて取り組み、体力・運動能力の向上を図った。

【今年度の課題】

- AIドリルを活用し、学習の個別化を図る。
- 品格ある行動を広める。
- 柔軟性と持久力を養い、運動の楽しさを味わわせる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	○	○
2	品格向上	○	○	○	○	○

3	体力向上	○	○	○	○	○
---	------	---	---	---	---	---

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
昨年度に引き続き、区学力調査の通過率が区平均を超えるよう、基礎・基本を大切に授業を行い、児童に学ぶ楽しさを味わわせる。	今年度の区調査通過率（区平均を2科目とも）上回ること 2月調査の平均正答率が4月の結果を上回ること		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	計算 コンテスト	2～6年	年2回 7月と 12月	四則計算に関するテストの実施(BSタイムや家庭学習の活用)	テスト結果の回収と個人の表彰	テスト結果が80点以上の児童がクラスの8割以上	自己評価の際に記入		
継続	漢字 コンテスト	2～6年	年2回 9月と 2月	学習した漢字の読み書きに関するテストの実施(BSタイムや家庭学習の活用)	テスト結果の回収と個人の表彰	テスト結果が80点以上の児童がクラスの8割以上			
継続	ALタイム	2～6年	週2回 15分 間	児童用タブレットのAIドリルを活用した個別最適な学習(5教科)	AIドリルの管理ツールを使った学習状況の把握	ALタイムの実施回数が前期、後期ともに25回			
継続	ステップアップタイム	全学年	週3回 15分 間	1年：MIMと文字の学習 2年以上：新出漢字の学習	自己申告面接時の担任報告	年間90回			
継続	読む力の育成	全学年 国語	毎授業 通年	①教科書の音読 ②国語辞典の活用 ③教師やデジタル教科書による範読	児童アンケートの回答	Yes回答が児童の8割			

重点的な取組事項－２		品格向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
児童の規範意識や帰属意識を培うことで、自己肯定感を高め、品格ある態度や行動を身に付けた児童を育成する。	児童アンケート（中・高学年対象）で各項目に Yes と回答する児童の割合が、対象児童の 8 割を超える。	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	
学習や生活のきまりである「弥生刈刈」を週目標や授業で取り上げ、きまりを守る態度を養う。	児童アンケートで、「きまりを守っている」「学習に集中している」と回答する中・高学年の児童が 8 割以上	学習のきまりは、教室に掲示して、児童がいつでも確認できるようにして意識付ける。生活（よい子）のきまりは、週目標に掲げて、期間を限定して取り組ませる。	自己評価の際に記入		
学級活動や縦割り活動を通して、学級や学校の一員であることの意識を培う。	相手の嫌がることをしない」「友達のよいところを見つけている」と回答する中・高学年児童が 8 割以上	低学年は帰りの会で「今日のキラさん（友達による行動評価）」を発表し、中高学年は週末の帰りの会に「ナイスプレー（善行）報告会」を開く			
心の三名人（挨拶・廊下歩き・靴揃え）に取り組み、自己肯定感を育む。	児童アンケートで「三名人を心がけている」と回答する中・高学年児童の割合が 8 割以上	三名人行動の重点期間を設けて『三名人カード』に自己評価し、それを担任が精査して、全校朝会でクラス賞を授与する。			

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力・運動能力調査の体力合計点の伸長を目指して、多様な運動に取り組み、運動する楽しさを味わわせる。		学年別男女別 12 の集団が体力調査の 8 種目すべて区の T スコアを上回り、児童アンケートで運動の質問に yes と回答する中高学年児童の割合が 8 割以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) 多様な運動に取り組み、体力・運動能力を伸ばす。	学年別男女別の 12 集団が 8 種目すべて区の T スコアを超える。	体力調査の弱点種目は、対象児童に補充の運動（トレーニングタイム）を行う。持久力を高める業間運動を行う。特に 50m 走と長座体前屈、ソフトボール投げの向上を図るよう、体育の準備運動等で行う。	自己評価の際に記入		
(2) 友達と協力したり、競い合ったりして、運動する楽しさを味わう。	児童アンケートで「体育（運動）が楽しい」と回答する割合が 8 割以上	個人種目では友達との関わる場面を設け、集団競技では、チームのめあてを決めて、運動に取り組みさせる			
(3) めあてをもって運動し、運動後には、取り組んだことを振り返る。	児童アンケートで「運動のめあてをもって取り組んでいる」と回答する割合が 8 割以上	授業の終末に、低学年は「がんばったこと」、中高学年は、運動のめあての「振り返り」を発表させる。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）